

## 2010年度 J I P (日本語インターンシップ・プログラム) 報告書



氏名：壺坂 健  
派遣先国・都市：タイ・コンケン  
派遣期間：19日間  
日付：2010年8月8日～8月26日

### 1. 受入機関の状況

- (1) 現地受入大学名・学部学科名：College of Asian Scholars・教育学部  
(略称 CAS)
- (2) 日本語教師数：2名
- (3) クラス数と日本語学習者数：3クラス、計152名

### 2. 担当した授業の状況

- (1) 実習を担当したクラス：  
パニチャヤカン・コンケン学校の英語学科高校2年生及び商業学科短大1年生、College of Asian Scholarsの特別授業の大学生
- (2) 生徒数：高校2年生25名、短大1年生13名、大学生3名
- (3) レベル（日本語能力）：初級レベル
- (4) 担当した授業の内容  
：使用教材 『日本語（基本）』 College of Asian Scholars オリジナルテキスト、書道用具（：教具 カルタカード、ビンゴカード）  
：担当時間数とコマ数 実習9時間 5コマ  
アシスト10時間 8コマ  
：授業前の準備 テキストの翻訳、教案の作成、教材・教具の購入



### 3. 授業前の準備に当たっての注意

学習者のレベルにばらつきがあり、全ての学習者が日本語に興味を持っているわけではないので、クラス全員が集中して授業へ参加できる内容となるように注意しました。

今回は書道をする際に書道用具の名前や用途を覚え、書道の仕方を通して日本文化も学んでもらいました。また、ひらがなを使ってカルタカードやビンゴカードを作成してもらい、全員でゲームを行いました。

授業全体としては思った以上に反応があり、よかったと思います。ただ、遅刻をして後から来る生徒の数がかなり多かったので、授業内容の説明のために授業が何度も中断し、スムーズに授業がはかどらない場面がありました。

その場合、最初からいた生徒、または後から遅れてきた生徒に対し、どう対処していくかを含めて、あらかじめ考えておく必要があったと思います。ただ、生徒の日本語に対する興味や学習意欲は十分に引き出せたと思います。

### 4. 授業以外の活動状況

日付	活動内容	実施場所
8月10日	農村地域の幼稚園・小中学校訪問	コンケン県バンファン市



バンサー幼稚園・小学校  
バンコン小中学校

8月11日	タイ王国母の日の式典に参加	コンケン市
-------	---------------	-------



パニチャヤカン・コンケン学校  
CAS

8月13日	大学生と論文のアンケート調査表の作成	コンケン市	CAS
-------	--------------------	-------	-----

8月14日	論文作成のための資料収集	バンコク都	国際交流基金バンコクセンター
-------	--------------	-------	----------------

8月16日 卒業式並びに創立30周年記念式典参加

コンケン県ポン市



ポン商業技術学校

8月16日～25日 大学生とアンケート調査

コンケン市

CAS

8月16日 タイ王国前外務大臣ドクター・カセー氏及び  
国立台中教育大学教授陣とディスカッション

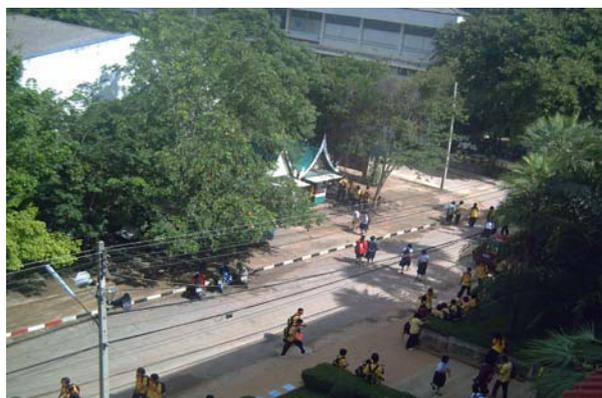
コンケン市

CAS



8月17日 中学校・高等学校訪問

コンケン県ポン市



カセー・パタナー中学校

ムアンポン・ピッタヤーコム学校

8月18日 コンケンFC vs スラータニーFC  
プロサッカー試合観戦

コンケン市

コンケン県総合運動場



8月21, 22日 国際交流基金現地指導者研修会参加 ナコンラチャシマー県  
ラチャシマー・ウィッタヤーライ学校



8月24日 日系企業視察

コンケン県ナンポン市  
パナソニック・コンケン工場



## 5. 今回の活動を通じて得たもの

今回、私はタイの東北部（農業を主産業とする地域）へ派遣されましたが、タイの地方の中学・高校でも日本語の授業があることに驚きました。そして、優秀な先生方がたくさんいらっしゃることで、バンコクのような都会と何ら変わりのない授業が受けられることにも驚きました。

このインターンシップに参加できたことで、タイにおける日本語教育の現状を垣間見ることができたと思います。今後、日本語教育に携わろうと考えている私にとって、今何をやらなければいけないのか、また、実際の教育現場ではどのような問題があり、どう対処していかなければいけないのかなど、体験してみないとわからない情報をたくさん得ることができ、非常に有意義であったと思います。

今回のインターンシップでの経験を糧に、これからもより一層の努力をし、日本語教育の普及、向上に少しでも貢献したいと考えています。

最後に今回、私のためにいろいろとお世話をしてくださった姫路獨協大学の

教職員の皆様、並びにCASの教職員の皆様、そしてコンケンの学生の皆様に心より感謝しております。ありがとうございました。

